



楽しい絵手紙



筑後市津島

江口 智子

絵手紙は以前から心惹かれるものがあり、機会があったら是非挑戦してみたいと思っていました。その頃指導して下さる原武先生に出会い絵手紙教室に入会しました。先生は一人一人のレベルに合せ、その人の個性を大事にして褒めながら一筆入れて頂くと、今まで昼寝していた様な絵がパッと目をさまし、下手なりに生き返ります。今回は観賞用に庭に栽植したホオズキを描いてみました。少女とホオズキの組合せから頬突という説もあるそうです。カメ虫が好んでこの葉を食べるけれど私が描くまで待つてくれて感謝しています。友達から「あなたの絵手紙はどんな薬よりも効きそうです」などの返事をもらって「待っていてくれてありがとう」と心の中で叫びたくなります。

健康万歳 ⑮ 認知症をよく知ろう

高齢化が進むと老化による物忘れなのか、認知症なのかの区別が付きにくくなる。老化による物忘れと認知症の物忘れは似ているようでもまるで違う。老化による物忘れが部分的な記憶の忘れであるのに対し、認知症による物忘れは体験そのものをスッポリと忘れていく。

認知症は、「アルツハイマー型認知症」、「レビー小体型認知症」「脳血管型の認知症」が大部分を占めている。

症状は中核症状と周辺症状があるが、後者の方が症状も多彩なだけ介護者に大きな負担をかける。認知症も他の病気と同じように初めが大切で、頭も使わないと筋肉や骨と同様ドンドン劣化する。

中核症状には薬の効果は余り期待は出来ない。

幻覚、妄想、不眠、不安、焦燥、徘徊、暴言・暴力、介護抵抗、失禁、漏便などの周辺症状には生活背景に原因が潜んでいることも多く、対応の仕方ではまだ改善の余地はある。ただ手が届かないからと言って早々と服薬に頼り過ぎるのは良くない。高齢者は肝臓や腎臓などの機能が低下しているのでクスリが体内に蓄積され易く副作用も出やすい。特に多剤服用の場合は危険がいっぱいだ。

10年ほど前までは「老人ボケ」と言われながらも家庭の一員としてそれなりの役割を果たしてきた。現在500万人を数える認知症は高齢だけの理由ではなく、核家族の結果、此れまでの老人の役割を奪い、介護施設の中に閉じ込めざるを得なくなった社会構造の変化も見逃せない。

老人施設で仕事をしていてよく目にする光景で思うことだが、お互いの会話も少なく目標も持てない老人たちが、マニュアル通りに至り尽くせりの介護を受け、逆に認知障害を進行させているのではないかと言う事だ。家族の方の面会は何より刺激になって目の色まで違ってくる。会話などで向き合うことが病状の進行を食い止める最良の手立てであると思うことが多い。 林 栄一(医師・八女市立花町)

彼女は毎晩、主のいない広い駐車場で夜空を見上げていた。涙でにじむ月を見た。星を見た。どんなに暴言を吐かれても突き放されても無視されても、かつて優しく待っていた。本当はそんな人ではないと……。二年待った時、そこは自分の居場所ではないことに気づいた。騙され欺かれ自分の存在は消えていることに気づいた。もう彼女は空を見上げなくなった。どんなに星がきれいな夜も。言葉を伝えることも帰って来ない返事を待つこともしなくなった。歌も聴くこともなくなった。そしてとうとう彼女は春、毎年大好きなツツジが咲く頃に咲くその場を離れる決心をした。もう寂しい気持ちに包まれなくてもいい。寂しさからの解放と同時に、彼女は長い間隠されていた事実を知った。笑い合える日を目指していた彼女とは裏腹の事実。嫌がらせ、わざと苦しめるハラスメント。彼女の心には、深い傷が残った。それから三ヶ月。久しぶりに相手からの連絡がきた。昔、一緒に行ったライブに行くの？と。彼女は相手の心が解けたかのように思えて喜んだ。けれどそれは、かち合わせないための確認だった。その瞬間、夜の広い駐車場の寂しさに引き戻された。幸せになりたい。彼女はそう願いながら必死に前を向いた。彼女の頬にはまだ乾いていない涙のあとがあった。それでも通り過ぎる夏を見送り、新たな季節に強く一步を踏み出した。 森

黄櫨 新春特別号

新年頭のごあいさつ 平成28年版 原稿募集



①平成26年版 ②平成27年版 ③平成28年版

平成26年にスタートした本誌には過去2回で県外を含む延85名の方から新しい年にかかる夢と希望、生きる喜びと決意をお寄せ頂きました。改めて信念、志を強く持ち続けることの大切さを教えられました。本誌を手にした人たちにも世代を越えて感動と生きるヒントを与えることができました。

スマホ、フェイスブック、ipad、タブレット…めまぐるしい技術革新を前に、今の音声も映像も決して永遠ではありません。一方紙に書いた文字は1000年の時を経ても残ります。今こそ活字力を信じて文字を通して縁と絆を深めませんか。

原稿内容 特に指定はありません。素直な心境で例えば父や母、夫や妻への感謝の気持ちや子や孫へのメッセージ、自分への叱咤激励など800字以内に書いてみませんか(厳守・見出し、氏名は字数に加えません)。短歌・俳句・川柳は20首(句)。一人B6判(182×128mm)2頁に編集して掲載します。ペンネームや匿名での参加は不可。個人情報保護のため住所は市・町名のみ掲載、電話番号は掲載しません。著者校正なし。原稿は返却しません。

本の製作費用 1冊540円(消費税)で1人10冊(以上)買い取りのご負担をお願いします。新年の挨拶として特別な人へのプレゼントにはいかがでしょうか。原稿受領後、送本依頼書をお送りします。

発行 平成27年12月20日(予定)。個別に本の発送を希望の方には平成27年12月30日～平成28年1月3日の間に着くよう、送料1冊110円(消費税)にてメール便にて発送代行します。10冊(以上)1ヶ所に送る場合は送料500円(消費税)

原稿締め切り 平成27年10月末日必着。郵送、FAX、メールで下記へお送り下さい。住所・氏名・電話番号を明記して下さい。原稿内容によっては掲載できないこともあります。頁数に限りがある為に先着順になる事をご了承下さい。

この企画及び黄櫨の会に関するお尋ねは 人生史サークル 黄櫨の会 事務局 東迄 〒834-0025 八女市祈禱院563 TEL.0943-24-2111 FAX.0943-22-4100 E-mail:higashikeitei@tea.ocn.ne.jp http://www.dcity-yame.com

矢部川源流・杉の里の四季 ④7

ウバユリ(姥百合)[ユリ科]

ウバユリの花は矢部村では7～8月頃、やや湿った明るい林の中や小道脇などに咲く。春の芽を出した直後の若葉や地下の球根・鱗茎(りんけい)を食用にもされてきている。

和名は花が満開になる頃には葉が枯れてくる事が多いため、歯(葉)のない「姥」にたとえて名づけられている。

(黒木町) 松尾 重根



黄櫨の会 公開講座

聴講無料

どなたもお気軽に ご来場下さい

演題 「魅力ある俳句とは」
講師 城 尊恵 先生(西日本短大附属高校教諭)
日時 9月19日(土) 13:30～
場所 八女市社会福祉会館

眩き

ハラスメント

彼女は毎晩、主のいない広い駐車場で夜空を見上げていた。涙でにじむ月を見た。星を見た。どんなに暴言を吐かれても突き放されても無視されても、かつて優しく待っていた。本当はそんな人ではないと……。二年待った時、そこは自分の居場所ではないことに気づいた。騙され欺かれ自分の存在は消えていることに気づいた。もう彼女は空を見上げなくなった。どんなに星がきれいな夜も。言葉を伝えることも帰って来ない返事を待つこともしなくなった。歌も聴くこともなくなった。そしてとうとう彼女は春、毎年大好きなツツジが咲く頃に咲くその場を離れる決心をした。もう寂しい気持ちに包まれなくてもいい。寂しさからの解放と同時に、彼女は長い間隠されていた事実を知った。笑い合える日を目指していた彼女とは裏腹の事実。嫌がらせ、わざと苦しめるハラスメント。彼女の心には、深い傷が残った。それから三ヶ月。久しぶりに相手からの連絡がきた。昔、一緒に行ったライブに行くの？と。彼女は相手の心が解けたかのように思えて喜んだ。けれどそれは、かち合わせないための確認だった。その瞬間、夜の広い駐車場の寂しさに引き戻された。幸せになりたい。彼女はそう願いながら必死に前を向いた。彼女の頬にはまだ乾いていない涙のあとがあった。それでも通り過ぎる夏を見送り、新たな季節に強く一步を踏み出した。 森